

ナナカマド等の街路樹維持管理 について

令和3年度 緑の審議会資料
2022年（令和4年）3月23日

街路樹の維持管理

○ 街路樹の目的・役割 <道路緑化指針より>

道路の緑化によって人々にやすらぎと潤いを与え、街並みに美しい調和をもたらすと共に、安全で快適な都市空間を営むうえで重要な役割

○ 維持管理の一例

- ① 樹種毎に定めたせん定頻度（1～5年）を目処に路線毎にせん定を実施
- ② 道路通行に支障となる枝や民地敷地内へ侵入している枝の枝払い
- ③ 害虫が大量発生した場合の消毒対応
- ④ 道路標識や信号などの視認性を阻害している枝の枝払い
- ⑤ 大木化を抑えるための樹木の芯止め

街路樹維持管理の課題

【現状】

- 労務単価の上昇，老木化・大木化による街路樹1本あたりの維持管理単価が年々上昇
- せん定本数について，費用の課題があり約3万本の管理街路樹本数に対し年間約5千本程度の実施にとどまる
- 冬季交通の確保のため，除雪の際に掻き分けた雪によって，街路樹（幹等）が損傷する



【樹形を考慮したせん定が難しい路線の例】

- 道路幅員が狭く，通行人に接触する可能性がある下枝をせん定
- 維持管理費の増大を防ぐために幹長を縮小化
- 民地側の狭い植樹帯に植えられており，今後民地側の枝をせん定した場合には歪な樹形となる

【課題】

- 十分な維持管理費用の確保が年々難しくなっており，年間にせん定できる本数の減少
- 適切な頻度でせん定ができないため樹形を考慮したせん定を行う事が困難
- 補植や防護等の作業にまで費用を回せない
- 除雪時に街路樹を傷つけずに堆雪スペースを確保するためには排雪が必要となり，除雪費への影響が生じる

ナナカマドの維持管理の課題

【現状】

- 街路樹管理本数約3万本，そのうちナナカマドの本数約6千本
- 代表的な路線として，緑橋通等があり多くの路線に植えられている

【ナナカマドの性質】

- 基本的にせん定を好まず，自然樹形が好ましい
- 傷口から病気が侵入しやすい

ナナカマドの維持管理の課題

【課題例】

道路の通行を確保するための除雪による影響で樹木が損傷する

雪を樹木側に寄せない

⇒ 堆積スペースの確保が困難

↳ 除雪の度に排雪を実施

⇒ 除雪の度に数百万円の排雪費用等が発生
現在の排雪体制(市内1回/月)では不可能

- ・ 雪を寄せるスペースが十分にある路線に植樹する
- ・ 雪が寄せられても耐えるような防護をする



【除雪の影響を受ける路線の例】

- 一般的な植樹樹や植樹帯は車道と歩道間に位置する
- 車道を除雪した雪は歩道へ、歩道除雪を実施している路線については、車道と歩道の間へ雪を堆積することで歩車道の通行を確保している
- 街路樹に雪を寄せないように除雪を行う為には、車道上に雪山を作る必要があるが、人や車の通行が困難となる
(※本年度のような少雪時でも1車線の路線となり、昨年度のような大雪時の場合は道路の通行が不可能となる。)

ナナカマドの維持管理の課題

【課題例】

定期的な※透かしせん定が行えず交通上支障があったり民地侵入した部分をせん定することにより、歪な樹形が形成される

定期的な透かしせん定や傷口保護

せん定や保護等の対応可能本数が更に減少

植栽環境等から街路樹路線を見直し、限られた維持管理費で計画的な街路樹の更新やせん定が行えるよう街路樹の本数等の整理が必要



【歪な樹形が形成されている例】

- 一般的な植樹樹や植樹帯は車道と歩道の間に位置するが、希に車道の上に植栽された街路樹路線が存在
- 歩道側及び道路側の枝について通行時の安全性及び視認性のためのせん定
- 大木化のため主幹の芯止め
- 車道や歩道上への落雪の危険性から樹形を無視したせん定
- 植栽環境に適した更新を検討する必要あり

※透かしせん定：混み合った枝を間引いて透かしていくようなせん定手法

まとめ



- 限られた維持管理費の中で管理を行っている以上、管理本数が増えるほど、樹齢を重ねるほど大木化や老木化により、街路樹全体の管理手法の質の低下が起きている



【解決に向けて】

- 市内一律同一基準による管理ではなく、街路樹路線毎の重要度を検討し、維持管理の優先順位付けが必要
- シンボルのような重要路線については景観の向上や緑化に対する満足度が向上するような管理を行い、それ以外の重要度の低い路線については最小限の管理や管理本数自体を削減するといった、メリハリのある維持管理が必要